

清たんの手・・・中荒井地区

清たんが手に持っているのは「梅の実」です。

清明地区の南端、北陸道に沿った中荒井の一角に、親鸞さまの大きな像が建っています。

今から八百年ほど前、親鸞さまが、念仏を禁止されて越後国に流される途中、中荒井村の辻の森で村人に教えを説いたそうです。そしてお昼に出たおにぎりを食べると中に入っていた梅干しの種をかたわらの土に埋めて、村人に仏教の教えを伝えたそうです。

その梅の種は、芽を出し成長し、とてもめずらしい、ひと房に八つの実をつけたとのことでした。

